

地域をまたぐ 除雪ボランティア活動

除雪ボランティアに
参加しようと思ったきっかけ

東京から車で約2時間の距離にある新潟県越後湯沢。川端康成の言葉を借りれば、関越トンネルを抜けたらまさにそこは雪国の世界があり、車の中は雪国独特のタイヤ音に変わり、「ああ、新潟県へ来たぞ！雪国へ来たぞ！」という高揚感に包まれます。それと同時に、雪道の運転に対する緊張感がぐつと深まります。

平成18年の年始めにスキーを楽しみに行った十日町・津南町などが、その後の豪雪で大変なことになっているニュースを目の当たりにし、びっくりしたことを覚えていました。この地域のために何か自分に出来ることはいないだろうか、考えたりもしましたが、

重機による除雪の様子を見ていたためか、その時は除雪ボランティアという発想は出てきませんでした。その後も毎年雪のシーズンになると、新潟県へスキーを楽しみに出掛けていました。

スキーを楽しんだある日の夕方、越後湯沢駅付近で信号待ちをしていた時に目にした光景は、アーケードの雪下ろしと除雪をしている地元の方々姿でした。

高校時代にラグビーをしていたので当時はまだ体力には自信があり、雪下ろし・除雪活動なら私でも出来るのではないだろうか、そう思ったのです。しかし雪下ろしと除雪の経験が全くない素人が突然「お手伝いさせてください」と言っても地元の方々足を引っ張るだけであり、どうしたら雪下ろしや除雪活動に参加することが出来るだろうか——そう思ったのが除雪ボランティア



堀木大輔
元中野区学校職員

【ほりきだいすけ】除雪ボランティアスコップに参加してからは、国産の陣笠とかんじき探しが趣味に加わる。学校職員時代はこの陣笠をかぶり外作業に従事。

イアに参加しようと思ったきっかけでした。しかし、漠然と参加したいと思った除雪活動は、のちのち大変な重労働だと気付かされたのです。

除雪ボランティアの活動の様子

どの団体がどこの地域で雪下ろしや除雪ボランティアを募集しているのか、全く情報を持っていなかった私は、東京へ戻ったあと早速、雪下ろし・除雪活動を行っているボランティア団体をインターネットで探し始めました。条件としては、「日曜日の午前中に活動しても夜までに帰宅出来ること」でした。そして見つけたのが、新潟県地域政策課雪対策室が募集していた除雪ボランティア「スコップ」でした。

除雪ボランティア「スコップ」の基本行



スノーダンプを使っでの除雪作業



動として、まず土曜日のお昼過ぎに、新潟県内の指定された集合場所まで自力で行くこと。自家用車や公共交通機関（新幹線・高速バス）などを使って、ボランティア参加者が集まってきます。山奥で活動する時は、集合場所からマイクロバスに乗り換え、さらに移動することになります。

ります。

初めて参加した時は除雪活動で使用する道具の名前も使い方も全く分からず、地元の方々に手取り足取り教えて頂きました。「大型の角型シャベル・スノーダンプ」は底を滑らすように回転させる——ちよつとしたコツが体力の消耗を防ぎます。また、雪で埋もれて



積もった雪は硬くて重い

しまっている玄関周りやその周辺では、靴に付ける「かんじき」がなければ身動きが取れませんので、かんじきの装着方法も教わります。

雪に覆われた除雪活動場所を見て「がんばろう！」という気持ち（は）が逸り、ついついオーバーペースとなり、1時間もすると息があがってきます。「ギョっ！」と硬く積もった雪は想像以上に重く、「除雪は焦らずマイペースで、休憩を取りながらしないと駄目」と、自分がバテることで学びます。

「除雪活動は思っていた以上に重労働だ」と、分り始めた頃はシャツも汗でびしょびしょになり、汗拭きと着替えが必要になってきます。また、こまめな水分補給も欠かせません。雪が降っていても動けば暑く、かと言って休憩で動きが止ると急激に身体は冷えてきます。

家周りの除雪をする際には雪の中に埋もれているガス管に配水管、雨戸井などがあり、これらをスコップやスノーダンプで傷つけたら、破損させないように細心の注意が必要になります。

また、積雪の向こう側が崖になっていたり側溝になっていたりと危険な箇所もあるので、地元の方々の説明なしで除雪活動することは出来ません。

休憩を挟みながら除雪活動は進み、数時間経った夕方には除雪した痕跡が明確に分かり、除雪の達成感があります。

土曜日の除雪活動も終了となり、参加者

地元の方の心づくしの夕食に感激（上）
朝食は越後のおいしいお餅で腹ごしらえ（下）



全員で宿泊先へと歩いて戻ります。宿泊先にお風呂がある時はそのままお風呂タイム。宿泊先がない場合は、徒歩またはマイクロバスでお風呂のある施設へと移動してのお風呂タイムとなります。

そんな時間を過ごしている間にも地元の方々は夕食（交流会）の準備をしてくださっています。前日から準備をして頂いているメニューもあり、感謝の気持ちでいっぱいになります。

「食事の用意が出来ましたのでどうぞ！」の声でみんなが食事場所へ集まって来ての一声が、「おお」という驚きの声です。地元で作られた山菜料理、お椀物、こしひかりのご飯など、そのほかにも様々な食事がテーブルの上に並んでいます。

「乾杯！」の音頭で交流会は始まり、地元の方々とボランティア参加者の笑顔と笑い声に包まれながら、賑やかな雪国での夜

上手になり、昨日より全体の除雪スピードが上がります。「よおし。今日も頑張るぞ！」という思いは強いのですが、しかし、積もって硬くなつた雪は重く、やはり重労働には変わりありません。

みんなで頑張ること数時間、いよいよ除雪活動終了の時刻を迎えます。疲労感と充実感が混在して心地よい気持ちを抱きながら宿泊先へと戻ります。

お昼ご飯が最後の食事になりますが、つきたてのお餅などが用意されている時もあり、2日間の温かいおもてなしに、改めて感謝の気持ちでいっぱいになります。

そして最後は地元の方々と全員での記念撮影で除雪ボランティア活動が終了となります。

が過ぎていきま
す。
翌日、日曜
日の朝食も美
味しく頂き、午
前中の除雪活
動へ入ります。
かんじきを履
いての動きにも
幾分慣れ、ス
ノーダンプの使
い方も

除雪ボランティアに参加して 感じたこと

私がスキー帰りに見た雪下ろし・除雪をしている方々の姿に笑顔はありませんでした。除雪ボランティアに参加して感じたことは、除雪活動はとにかく大変な重労働であるということでした。

ボランティア活動は1泊2日で終わります。しかし、雪国での生活は冬の間毎日続



除雪活動は大変な重労働。オレンジ色のカッパを着用し、陣笠をかぶっているのが私です

新潟県 除雪ボランティア「スコップ」



除雪 ボランティア

メンバー募集!

新潟県の豪雪地において、高齢者世帯などの除雪作業を手伝う除雪ボランティア「スコップ」のメンバーを募集しています。メンバーが力を合わせて除雪した後、地域の方たちとの交流もあります

【登録後の流れ】

- ①新潟県から活動日程と一緒に参加依頼メールをお送りします
- ②参加可能な方は、実施市町村へ参加申込をしてください
- ③市町村から活動の詳細を連絡いたします
- ④活動参加 ※指定された場所までの往復に要する交通費及び宿泊代などは自己負担となります
※屋根雪下ろしなど危険な作業は行いません

登録受付中!!

ボランティア登録はこちらから
詳しい情報は、新潟県庁のホームページへ!

携帯電話から パソコンから

新潟県の雪情報

<http://www.chiiki.pref.niigata.jp/yuki/>

お問い合わせ先 〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4番地1
新潟県総務管理部地域政策課雪対策室
TEL: 025-280-5096(直通) FAX: 025-280-5227
Eメール: ngt010130@pref.niigata.lg.jp

除雪作業は「一人でしない」「無理しない」「落雪・転落気をつけて」

新潟県では今冬も除雪ボランティア「スコップ」メンバーの登録を受付中です!



くのです。「夜中に屋根が潰れるのではないかと心配になる」「朝、雪かきをしないと家から出られない」私の住んでいる東京では考えられない話を聞いて、雪国に暮らす方々の大変さを身を持って知ることが出来、この除雪ボランティア活動に参加して本当に良かったと思います。

「急激な天候の変化で除雪ボランティア参加予定日ではない時に除雪が必要だった」という話を聞いたこともあり、この除雪ボ

ランティア活動を企画する難しさも感じさせられました。

渋滞はつらいけど

除雪ボランティア「スコップ」に参加して以来、私は毎年冬になると時間を見つけて除雪活動のため越後湯沢に足を運んでいます。かんじき、スコップなどを持参して行くことから、私は車で参加していますが、



雪灯籠が疲れを癒してくれます

関越自動車道の渋滞には悩まされます。東京から越後湯沢まで渋滞がなければ約2時間。しかし、渋滞に巻き込まれ7時間掛かったこともあります。

全ての活動が終了して帰ろうとしたちょうどその時に、雪のため上越新幹線・上越線がストップし、公共交通機関を利用して参加された方が帰宅するのに困難を強いられたこともあり、改めて雪国の凄さを痛感させられました。

それでも除雪活動で少しでも地元の方々が楽になって頂けたら嬉しい!——その思いから体力の続く限り参加しつづけた除雪ボランティア「スコップ」です。